西国巡礼慈悲の道

西国第二十五番　御嶽山　播州　清水寺

観音さまの語源と本願

住職　清水谷善英

西国霊場の御本尊は観音様です。観音さまの名称は正確に言いますと観世音菩薩、または観自在菩薩と言います。

「観世音菩薩」は鳩摩羅什（五世紀中国南北朝時代の訳経僧）の翻訳で、「観自在菩薩」は玄奘（七世紀唐代の訳経僧で大般若経の翻訳などをした僧）の翻訳です。

観世音菩薩は妙法蓮華経二十八品の内第二十五品目の普門品に説かれている菩薩です。大慈大悲で衆生（生きとし生けるもの）を済度（救う）する事を本願とし、勢至菩薩と共に阿弥陀如来の脇侍です。衆生の求めに応じて種々に姿を変えるとされ、三十三身が最も有名です。また七観音・三十三観音など、多くの変化観音が画かれております。

七観音とは聖観音、千手観音、十一面観音、如意輪観音、准胝観音、馬頭観音と不空羂索観音です。

三十三身とは長者・居士・宰官・婆羅門など普門品に出てくるいろいろな人などの名称を整理すると三十三になります。この三十三にちなみ西国三十三霊場も出来ています。

観音さまのご住所は南インドの南海の普陀洛山とされ、中国では浙江省の普陀山、日本では西国第一番那智山を当てています。

観世音とは、世間（衆生）が救いを求めるのを聞くと、直ちに救済する、という意味です。救いを求める者のすがたに応じて大慈悲を行ずるから千変万化の相となるといいます。

また、七難をのがれるといいます。七難とは火難・水難・風難（羅刹難）・刀杖難（王難）・鬼難・伽鎖難・怨賊難をいいます。

三毒を離れることも説かれています。

三毒とは貪・瞋・癡のことです。

「貪」とはむさぼりのことで、欲深くものを欲しがる。際限なく欲しがることです。

「瞋」とは怒りのことで、おこり、はらをたてることです。

「癡」とはおろかさのことで、愚かしいことをいいます。

このように私たちの願いを聞き入れ、救って下さるのが観音さまです。

西国第二十五番

御嶽山（みたけさん） 清水寺（きよみずでら）（播州清水寺） 天台宗

御本尊／十一面千手観世音菩薩　**開基**／法道仙人

あはれみや　あまねきかどの　しなじなに
なにをかなみの　ここにきよみづ

❊ 主な年中行事 ❊

1月元旦　修正会
4月第3日曜日　無縁経法要
5月5日～8日の最後の休日　花まつり・仏生会
8月13・14・15日　精霊会・お盆
8月26日（旧暦7月26日改め）　二十六夜待法要
毎月第3日曜日　午前6時開始（1月～3月休み）朝粥会
毎月第3日曜日　月例護摩供

観音風光

西国三十三所観音霊場のおまつりしてある寺院の場所は、三分の一はお山の頂上付近にあり、三分の一は谷間にあり、あとの三分の一は里や街の中にあるといわれております。一度分類をして思い出していただくのも、よい想い出になると思います。

当山からは湿度の低い日には明石海峡大橋や淡路島もよく見えます。

二十五番の観音さまはこんなに見晴らしの良い場所にいらっしゃいます。

ご詠歌の意味

「あはれみや」は古語で、しみじみと考えてみまするにと言う意味です。
「普き門（あまねかど）の品々（しなじな）に」は漢字だけをひらって見て下さい。観音経の普門品が読み込んで有ります。普（あまね）くあちらこちらの多くの方々にお参りをして戴き普門品の観音経をおとなえして下さい。そうしたら「なにをかなみの」は何もくよくよ悩むことはないですよ、「ここに清水」はこの清水寺の観音様にご参拝下さい。というような意味になります。

〒673-1402 兵庫県加東市平木1194
TEL 0795-45-0025㈹／FAX 0795-45-0322　http://kiyomizudera.net
納経時間　午前8時～午後5時（但し午後4時半までに登山口をお通り下さい）

西国三十三所札所会ホームページ　http://www.saikoku33.gr.jp

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきましょう。